

## 平成 29 年度 学校評価実施報告書

学校名 (檜原中学校)

### (1) 「確かな学力」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <p>習得した知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学ぼうとする意欲 (学ぶ喜び・目的意識・課題意識・将来展望等) の育成</li><li>・生涯にわたって学び続ける力 (学び方を身につける・問題解決能力・自己教育力等) の育成</li></ul>	
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「わかる喜びと学ぶ楽しさ」を実感できる、一人ひとりに応じた授業を目指し、効果的な指導法や指導体制のさらなる工夫改善を図る。</li><li>・授業において「学習課題 (めあて・目標)」に応じた「まとめ」と「振り返り」を行うことを徹底する。</li><li>・習得した知識・技能を活用し、言語活動を重視した学習活動を展開する中で、思考力・判断力・表現力等を育てる。</li><li>・理科教育における観察・実験、体験活動や作業的活動、生徒同士が意見を深めあう活動など、多様な学習形態を取り入れ、主体的に問題解決を図る学習を進める。</li><li>・学校図書館を「学習・情報センター」「読書センター」として活性化させ、また新聞等を活用し主体的な学習活動の充実を図る。</li><li>・数学的な思考力・表現力と学ぶ意欲を育成する。</li><li>・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の 4 技能を高める言語活動をバランスよく充実させコミュニケーション能力の基礎を養いグローバル化時代における実践的な英語力の育成を図る。</li><li>・LD 等支援の必要な生徒に対して「個別の指導計画」を活用し、きめ細かな学力向上の取組を推進する。</li></ul>	
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・授業改善が見られるか</li><li>・家庭学習が習慣化しているか</li><li>・読書の習慣が身についているか</li></ul>	
<p>各種指標結果 (1 回目)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・授業改善の実現度は 92 % を超えた</li><li>・家庭学習の習慣化は重要度が 90 % を超えるも、実現度は 72 % に留まっている</li><li>・読書の習慣は 86 % の実現度であった</li></ul>	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・教員の授業改善が進んでいることが今回の結果からわかった。しかし、現状に甘えることなく日々細かな改善を進めていくことが重要である。</li><li>・家庭学習は学校側からの提供は進んでいるものの、実現度においてもう一段階進めたい</li></ul>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・授業改善について、学習規律を守らせることに改善が見られる。また、目当てを明確にした授業展開をすることによって、学びの動機づけが広く浸透してきている。</li><li>・LD や要支援への理解が進み、学校全体での取組への機運が高まっている。</li></ul>

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・中学校の取組，取り分け地域への貢献度について高い評価をいただいている。地域の一住民としての意識を高めてもらいたいとのご意見をいただいた。 ・学力面の充実には一定の評価をいただいた。部活動の活躍とバランスを取りながら今後も学校運営に取り組んでもらいたいとのご意見をいただいた。 ・地域活動に参加してもらうための支援は惜しまないと言っている。	
	評価日 平成29年9月8日	評価者 学校運営協議会
各種指標結果（2回目） ・授業改善の実現度は前期とほぼ同じ ・家庭学習の実現度は76% ・読書習慣の実現度は80%		
自己評価	分析（成果と課題） ・授業改善は順調に進んでいる。 ・家庭学習の実現度が上がったのとは逆に読書の習慣がほぼ同じだけ下がっている。表現力の向上のためにも読書の果たす役割は大きいので、改善策を打ち出したい。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・授業改善の中で小学校の特活の取組を一部採用した。発表やその準備のためにその取組が活かされた。 ・家庭学習の実現度が改善されたことは学力向上につながっているようである。 ・特別支援の観点からの授業改善の検討を進めることが必要である。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・中学校の学力面での現状には概ね満足している。下位層をいかにして引き上げるかが学校の枠割であるのご意見をいただいた。 ・個別指導や特別支援などで、地域からの協力が必要であれば申し出ていただきたい。	
	評価日 平成30年2月3日	評価者 学校運営協議会

## (2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標	
<ul style="list-style-type: none"><li>・命を大切にし、思いやりや感性を培い、逞しい精神力・忍耐力や規範意識を育てる道德教育を推進する。</li><li>・生徒一人一人を大切にし、個々の課題を明確にした教育実践を展開する。</li><li>・美しいものや自然に感動する柔らかな感性、正義感や公正さを重んじる心、生命を大切にし、人権を尊重し他人を思いやる心、協調性や寛容性・道徳的価値を大切にする心を育成する。</li></ul>	
具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"><li>・規範意識の育成に努める。</li><li>・いじめ防止等基本方針の基づき「いじめは絶対に許されない人権侵害である」ことを理解させ人権意識を高める取組を推進する。</li><li>・道德教育推進教師を中心に教育活動全体を通じて道德教育の充実を図る。道德の時間については、各時間のねらいを明確にし、多様で効果的な指導方法を工夫して、その充実を図る。</li><li>・あいさつの徹底など具体的な指導を通して、人と人とのつながりを大切にする取組を推進する。</li><li>・社会生活を送る上で人間としてあるべき姿を考えさせる。</li><li>・情報社会における「心を磨く領域」と「知恵を磨く領域」を、バランスよく系統的に指導する。</li><li>・身近な動物や植物に親しみ、育てるなど直接的、具体的な体験を通して命の温もりや尊さを感じさせ、「豊かに生きる」ことの意味を実感させる。</li><li>・すべての生徒が自己有用感や自尊感情を高める中で、支え合い高めあう集団づくりを推進できる学級を作る。</li><li>・ＳＣ，ＳＳＷ等専門職との連携や多角的な視点を持ち、精神の通った指導を徹底し、「心の居場所」づくりを推進する。</li></ul>	
(取組結果を検証する) 各種指標	
<ul style="list-style-type: none"><li>・地域活動に楽しく参加できているか</li><li>・正しい言葉遣いができているか</li><li>・あいさつがしっかりできているか</li></ul>	
各種指標結果（１回目）	
<ul style="list-style-type: none"><li>・言葉づかい、あいさつとも実現度は９０％を超えている</li><li>・地域活動には、部活動単位で清掃活動を中心に参加できている</li></ul>	
自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"><li>・生活委員、教職員による朝の登校指導により、あいさつの習慣が身についている</li><li>・部活動を中心に言葉づかいやあいさつを指導していただいている</li><li>・地域の清掃活動には多くの生徒に浸透してきたようである</li></ul>
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒の言葉づかいを正すと共に、教職員の生徒に対する言葉にも注意していきたい</li><li>・地域の諸活動には清掃だけでなく様々な行事があるので、参加を促していきたい</li></ul>

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・学校へ行くと、大きな声であいさつをしてくれてとても気持ちがいい ・清掃活動は中学生の活躍でとても助かっている ・少年補導のキャンプや区民体育大会にも参加を促してほしい	
	評価日 平成29年9月8日	評価者 学校運営協議会
各種指標結果（2回目） ・言葉遣い、あいさつとも実現度は90%を越えている。 ・地域の諸活動への参加率が上がっている。		
自己評価	分析（成果と課題） ・あいさつ運動の継続により、好ましい状況になっている。 ・地域活動は清掃活動を中心に中学生たちの活躍が見られる。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・生徒たちに地域住民としての自覚を持たせるような取組を進めたい。 ・地域の防災拠点になることがあるので、防災訓練などにも積極的に参加させたい。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・区民体育祭に多くの中学生が参加してくれて、とても盛り上がった。 ・清掃活動では大きな戦力となっている。今後も継続していただきたい。 ・防災訓練で中学生に何らかの役割を担ってもらいたい。	
	評価日 平成30年2月3日	評価者 学校運営協議会

### (3)「健やかな体」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己管理に努め、生活を改善する力をつける。</li> <li>・心身の健康を維持したくましく生きるための体力をつける。</li> <li>・意欲や気力の充実を図り、毎日を明るく生き生きと生活できる力をつける。</li> </ul>	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的・計画的な安全管理を徹底する。</li> <li>・運動することの楽しさや喜びを、体感させる取組を推進する。</li> <li>・運動部活動の充実を図る。</li> <li>・「早寝・早起き・朝ご飯」等望ましい生活習慣を、自ら実践する取組を推進する。</li> <li>・和食文化を念頭に置きながら、食物アレルギーなどについて研修を深め食教育指導を推進する。</li> <li>・「生活安全」「交通安全」「災害安全」について計画的に指導を行う。</li> <li>・防災教育・防災管理を総点検し、取組の改善に生かす。</li> </ul>
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を守って行動できるか</li> <li>・朝食を毎日食べているか</li> <li>・体力テストの結果や運動系部活動への入部率</li> </ul>	<p>各種指標結果(1回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を守るについては実現度は90%を超えている</li> <li>・朝食の習慣はほぼ定着しているが、徐々に早起きが苦しくなっている</li> <li>・運動部活動には1年生で80%以上の入部率で、熱心に活動している</li> </ul>
<p>自己評価</p>	<p>分析(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を守らせる指導は実を結びつつあり、今後も継続する必要がある</li> <li>・健康管理には食教育を中心に、取組を進める必要がある</li> <li>・安全教育を深める必要がある</li> </ul> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後期に向けて遅刻が増える傾向があるので、そうならないように日々の指導を続けたい</li> <li>・安全教育は訓練等が陳腐化しないように、新たな取組を入れる必要がある</li> <li>・朝食摂取の習慣は100%を目指すと同時に、望ましい食教育を進める必要がある</li> </ul>
<p>学校関係者評価</p>	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動に向かう姿勢、成績などは素晴らしいものがある</li> <li>・交通安全意識が低くなるのが中学生なので、学校でも徹底してもらいたい</li> <li>・地域でお手伝いできることがあれば、些細なことでも言ってほしい</li> </ul> <p>評価日 平成29年9月8日</p> <p>評価者 学校運営協議会</p>

各種指標結果（２回目）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を守ることにについては実現度が９５％を越えている</li> <li>・早寝早起きの習慣も１回目からは５パーセント改善し、８０％の実現度となっている</li> <li>・朝食の摂取も９０％を越えている</li> </ul>		
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣が大きく乱れずにこれたのは、学校・地域・家庭での日々の指導が奏功している証であろう。</li> <li>・安全教育の一環として防災についての講義を実施した。防災意識が高まったようである。</li> </ul>	
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣を確立させることが教育活動の第１歩という意識を全教職員に持たせ、毎年手を変えつつ取組を進めることが重要である。</li> <li>・どのような取組でも陳腐化させることなく、その意義を十分に浸透させる必要がある。</li> </ul>	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・登校の様子を見てみると、学校の状態がよくわかる。檜原中の状態は望ましいものだ。</li> <li>・防災訓練を担っている地域住民は、高齢化が大きな問題である。中学生たちの活躍に期待している。</li> </ul>	
	評価日 平成３０年２月３日	評価者 学校運営協議会

#### （４）学校独自の取組

重点目標
小中一貫教育のさらなる推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・檜原中学校区の生徒・児童がともに活動することで友情を築き、お互いを思いやるやさしさを育む。</li> <li>・檜原中学校と檜原小学校・松陽小学校が連携をとることで学習の継続性を生み、学力の向上を図る。</li> </ul>
具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「東書ウェブライブラリー」の活用</li> <li>・学習確認プログラムに係る学習プリントを中学では自主活用し、自主学習を継続して行う。</li> <li>・小学校にて「科学・英語教室」を実施する。その講師に中学校の理科・英語の先生を招く。</li> <li>・地域合同清掃活動に参加する。（天皇の杜，史跡公園等）</li> <li>・中学校合唱コンクールへの小学６年生の招待</li> <li>・吹奏楽部を中心とした音楽会の開催。</li> <li>・中学の授業及び部活動の体験。</li> </ul>

(取組結果を検証する) 各種指標 ・小中での情報交換 ・参加児童へのアンケート		
各種指標結果 (1回目) ・小中の情報交換は、管理職を中心に進められた ・小学校児童の参加する行事は後期に実施予定		
自己評価	分析 (成果と課題) ・管理職レベルの情報交換は進められたが、他の部分については十分とは言えない	
	分析を踏まえた取組の改善 ・後期は合同行事が多くあるので、教務を中心に連携を深める必要がある	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・中学校の行事を楽しみにしている児童がたくさんいるので、充実させてほしい	
	評価日 平成29年9月8日	評価者 学校運営協議会
各種指標結果 (2回目) ・管理職間の情報交換を密に行うことができた。 ・合同行事を充実させることができた。		
自己評価	分析 (成果と課題) ・合唱コンクールへの小学6年生の参観は2年目に入った。小学生たちの大きな励みとなっているようである。 ・交流会で小学生に中学校での授業体験をしてもらった。好評であったので、次年度はますます充実させていきたい。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・交流会が冬期の設定だったので、見直していく方がよい。 ・小学生の参観行事を合唱コンクールだけでなく体育大会にも広げたい。	

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生が小学生と共に行動することはお互いによい作用をしてくれるだろう。</li> <li>・交流会を充実させるために地域としても協力をさせていただく。</li> <li>・合同行事などはもっと広報活動をしてもらいたい。</li> </ul>	
	評価日 平成30年2月3日	評価者 学校運営協議会